

乳用牛確保・改良促進対策事業

現状と課題

畜産課：11,150千円

- 酪農家の高齢化や後継者不足によって飼養戸数・飼養頭数が減少している中、県単事業等を活用した外部からの高能力な乳用牛の導入の活用、繁殖成績の向上等により、生乳生産量は維持している。
- しかしながら、佐賀県における経産牛の1頭当たりの年間搾乳量は、依然として都府県平均より低く推移している。
- 酪農家の経営改善及び県生乳生産量の維持・拡大を図るためには、1頭当たりの乳量を増加することが重要である。
- また、乳用牛群の維持・拡大を図るためには、外部導入に加えて自家育成による後継牛の確保を推進することが必要である。

R7要求の考え方

①乳用牛の確保に資する取組 及び ②繁殖成績向上に資する取組 に対して助成する。

R7要求の概要

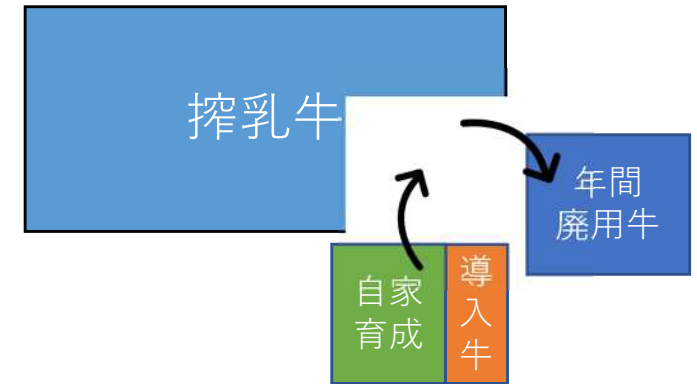
- 次表に掲げる対象経費の一部を助成する。

対象経費	補助率	事業量	県補助金
① 乳用牛の確保に資する取組			
ア 高能力な乳用牛の導入	定額70千円、35千円	110頭	5,250千円
イ 自家育成による後継牛の確保に対する助成	定額20千円	200頭	4,000千円
ウ 高能力な乳用牛の性判別精液の利用	1,500円/本を超える額の1/2	350本	1,225千円
② 繁殖成績向上に資する取組			
ア 乳汁検査	1/4以内	500回分	75千円
イ 繁殖検診		5戸分	600千円
計	—	—	11,150千円

生乳生産基盤を安定させるための対策（イメージ）

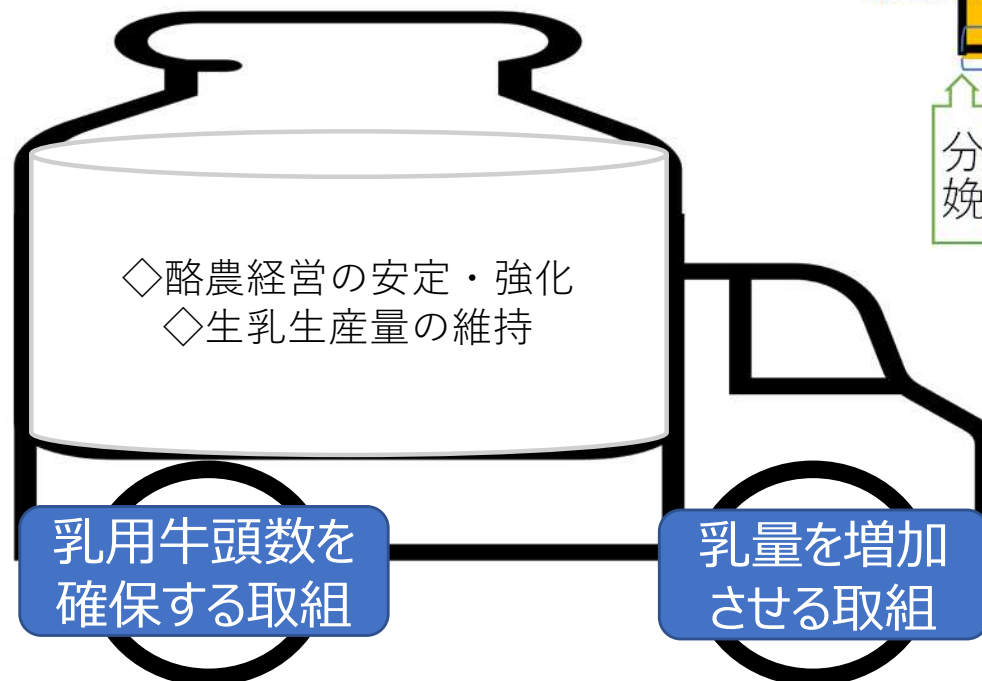
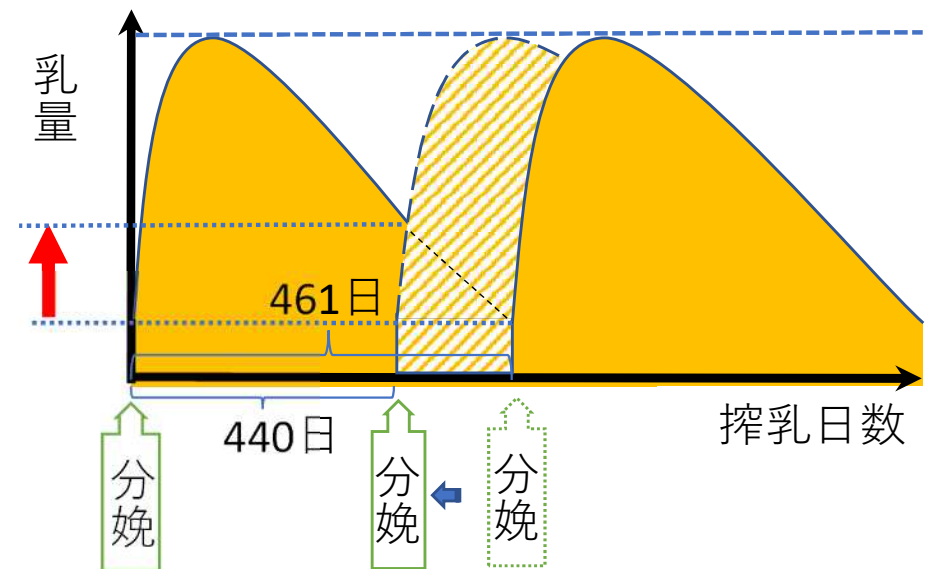
①乳用牛の確保による生産基盤の安定・強化

- ア 高能力な乳用牛の外部導入
- イ 自家育成による後継牛の確保に対する助成
- ウ 高能力な乳用牛精液の利用



②繁殖成績向上による乳量の増加

- ア 乳汁検査による妊娠判定技術の活用
- イ 繁殖検診によるモデル的な取組



どちらの取組も必要

乳用牛の確保による生産基盤の安定・強化を図るための取組

佐賀県の酪農家の乳用牛群を維持・強化するためには年間廃用牛頭数を超える乳用牛を確保する必要がある。

ア 高能力な乳用牛の外部導入に対し定額助成し、乳用牛群を維持・強化する。

イ 自家育成による後継牛の確保に対して定額助成し、将来的な生産基盤を安定させる。

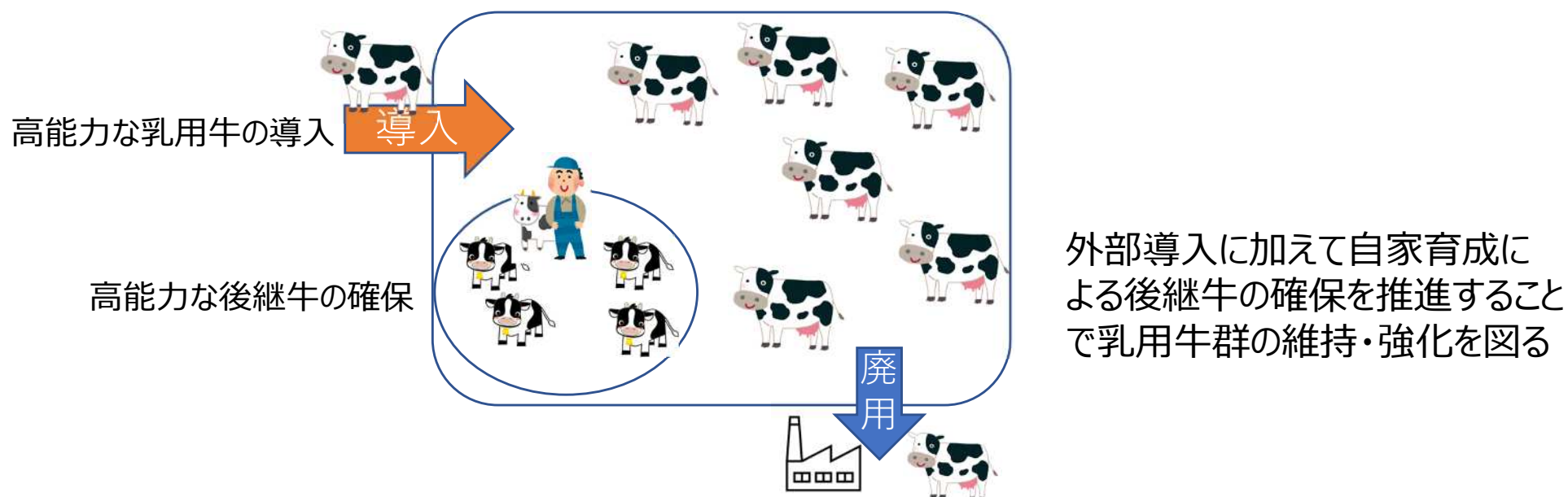
ウ 高能力な乳用牛の精液と一般的な精液の購入価格の差額に対して助成し、後継牛改良を促進する

佐賀県の酪農状況	R 1	R2	R3	R4	R5	R6
飼養戸数	43	41	40	39	34	27
飼養頭数（頭）	2,280	2,230	2,050	2,089	1,899	1,783
外部導入数（頭）	54	55	60	70	69	110※
育成牛、子牛の飼養頭数（頭）	498	488	404	421	409	320

※R6年度は予定数

全体の飼養頭数は農家の離農等の影響で減少しており、その中でも次世代の生産基盤となる育成牛と子牛の飼養頭数は大きく減少している。外部から乳用牛を導入することで、乳用牛群の維持・強化をしている状況である。

しかし、外部導入は市場価格の影響を受けやすく、飼料価格高騰により酪農経営が厳しくなっていることから、今後も乳用牛群を維持・強化するためには外部導入だけではなく、自家育成率を高め、高能力な後継牛を確保することが生産基盤安定の生命線となる。



①ーア 高能力な乳用牛の外部導入

高能力な乳用牛の外部導入に対し定額助成し、生乳生産基盤を維持・強化する。《補助対象牛》

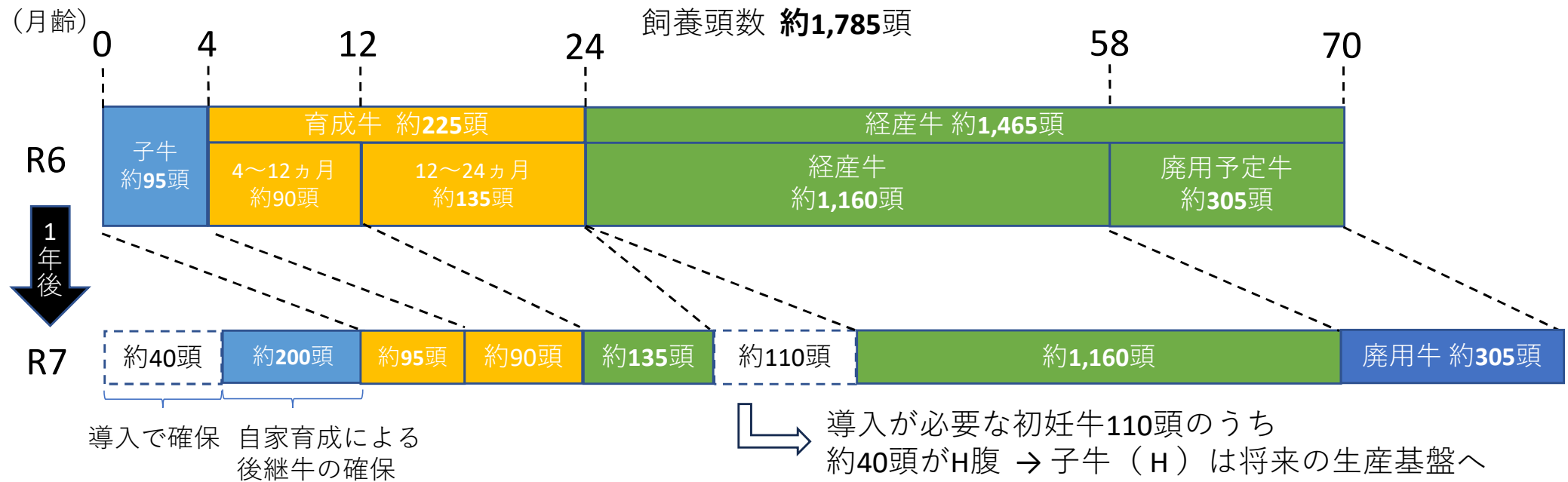
初妊牛（H腹） 70千円/頭

初妊牛（F1腹） 35千円/頭

- ・経営内の牛群改良の基礎となりうる能力を持つこと。
- ・導入した牛については、原則として乳用種精液を授精し、後継牛を確保すること。

【導入必要頭数の考え方】

酪農家が現在の乳用牛群を維持・強化するためには、外部導入により高能力な乳用牛を確保する必要がある。



【補助金の考え方】

昨年度までH腹とF1腹の導入への補助は一率で行っていたが、将来の生産基盤確保にも繋がるH腹への補助を厚くすることでH腹の導入を促進する。

初妊牛（乳用種）：40頭×70千円＝2,800千円

初妊牛（F1、和牛）：70頭×35千円＝2,450千円

計5,250千円

【予算額】

5,250千円

（参考）R5年度事業導入実績

初妊牛（H腹）25頭

初妊牛（F1腹）44頭

①ーイ 自家育成による後継牛の確保に対する助成

自家育成により確保した乳用雌子牛に対し定額助成し、生産基盤を安定・強化させる。

・乳用雌子牛 20千円/頭

《補助対象牛》

- ・事業年度に出生した乳用雌子牛であること。
- ・出生後、速やかに耳標登録を行うこと。

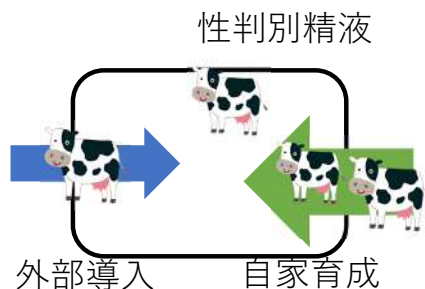
現状と課題

・所得確保に繋がる黒毛和種精液の授精が増えたため、**自家育成に向ける割合が低い**（中小規模経営体に多い）。

・労働力削減のため自家育成を行わず経産牛の更新を全て外部導入で行う方針の酪農家もいる（大規模経営体の一部）。

自家育成の割合が低くなると、飼養頭数が維持できなくなり、県内の生産基盤が縮小してしまう。

そのため、自家育成への支援が必要。



	経産牛頭数	経産牛1頭 当たり年間搾乳量	生乳 生産量
H30	1,640頭	8,506kg	14,715千t
R12	2,100頭	8,700kg	17,400千t

〈参考〉：佐賀県酪農・肉用牛生産近代化計画（令和3年3月策定）

目標を達成に向けて

高能力な乳用牛の導入に加えて、自家育成による後継牛の確保を促進することで、足腰の強い生産基盤を作る。

単価の考え方（乳用雌子牛の育成にかかる飼料費）

	R6年度価格	平均給与量	飼料費
代用乳	664円/kg	40.6kg	26,958円
人工乳	141円/kg	92.7kg	13,070円
計			40,028円

約半分を補助

定額
20千円/頭

【事業費】

20千円/頭×200頭
= 4,000千円

【予算額】
4,000千円

①ーウ 高能力な乳用牛の性判別精液の利用

高能力な乳用牛の精液と一般的な精液の購入価格の差額に対して助成し、後継牛改良を促進する。

・ 1,500円/本を超える額の1/2以内

《補助対象精液》

・ 家畜改良センターの乳用牛評価報告（国内種雄牛及び海外種雄牛）で総合評価指数が20位以内の性判別精液

※性判別精液：乳量等の向上効果が期待でき、殆どが雌牛が生まれる乳用牛の精液

【性判別精液の必要本数の考え方】

項 目		備考
経産牛頭数	1,440頭	農林水産省「畜産統計」 R6.2.1現在
自家育成必要確保数	200頭	
必要確保数のうち高能力な乳用牛の性判別精液利用率70%以上を目指す		
性判別精液から出生する子牛	140頭	
性判別精液必要本数	350本	性判別精液受胎率：約40% ⇒ 140頭/40% = 350本
補助対象とする必要精液本数 約 350本		

(参考) R5年度事業導入実績
ホルスタイン精液本数 933本
うち性判別精液本数 350本

【補助金の考え方】

性判別精液を購入する経費から1,500円を超える額の1/2を補助。

性判別精液の平均価格は8,500円/本

$$(8,500円 - 1,500円) \div 2 = 3,500円/本$$

$$3,500円/本 \times 350本 = 1,225千円$$

【予算額】

1,225千円

②－ア 繁殖成績向上に資する取組（乳汁検査）

簡易妊娠判定技術（乳汁検査経費）に対して助成し、分娩間隔を短縮する。

- ・ 乳汁検査経費の1/3以内

【乳汁検査（妊娠関連糖タンパクPAGの検査）の仕組み】

★PAG（Pregnancy Associated Glycoproteins：妊娠関連糖タンパク）とは？

⇒妊娠時のみ胎盤より分泌される糖タンパク。

目的：人工受精後の乳汁検査で不受胎牛を早期発見する。

乳汁を採取



乳汁検査

PAGレベル
を調査

判 定

妊娠／不受胎

人工授精後28日より
妊娠確認が可能

【補助金の考え方】

分娩間隔短縮を目的とする乳汁検査普及のため、
JAの要望の500回分を補助。

乳汁検査数500回×600円×1/4＝75千円

【予算額】

75千円

②ーイ 繁殖成績向上に資する取組（繁殖検診）

県外獣医師の協力を得て繁殖検診を行うモデル的な取組に対して助成し、繁殖成績の向上を図る

- ・繁殖検診経費の1/3以内

《繁殖検診の条件》

- ・モデル農家を選定すること（繁殖検診が不足している農家を中心に選定）
- ・県外獣医師の協力を得て、繁殖検診と併せて飼養管理・繁殖管理の技術向上を図りモデル的な取組とすること。

【概要】

県外獣医師の協力を得て繁殖検診（月1回、5戸）を行い、併せて飼養管理・繁殖管理の技術指導を受けて繁殖成績の向上を図るモデル的な取組に対して助成する。

【モデル農家5戸 飼養規模】

A： 32頭

B： 21頭

C： 33頭

D： 42頭

E： 42頭

継続して繁殖検診
を実施

【繁殖検診の内容】

- ・フレッシュチェック、発情の診断、低受胎牛の原因診断、栄養状態の改善
- ・ホルモン処置による排卵促進
- ・飼養管理・繁殖管理の技術指導

【補助金の考え方】

繁殖検診費

事業費 $40\text{千円} \times 5\text{戸} \times 12\text{回} = 2,400\text{千円}$

$2,400\text{千円} \times \text{補助率 } 1/4 = 600\text{千円}$

【予算額】

600千円